

(別紙様式3)

令和2年3月30日

研究開発完了報告書

住所 福井県福井市大手3丁目17番1号

管理機関名 福井県教育委員会

代表者名 豊北 欽一

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発の実施状況を、下記のとおり報告します。

記

1 事業の実施期間

2019年 5月16日(契約締結日)～ 2020年 3月 31日

2 指定校名・類型

学校名 福井県立丸岡高等学校

学校長名 河野 和博

類型 グローカル型

3 研究開発名

持続可能なふるさとの豊かな営みを創出するグローバル人材の育成

4 研究開発概要

- (1) 文理融合のカリキュラム研究開発と国際協働探究学習の推進
- (2) 社会にイノベーションを起こす地域リーダーの育成
- (3) 留学生の受入れとグローバル人材の育成
- (4) コミュニケーション能力を重視した英語の授業実践
- (5) 探究的な学びを指導できる教師の育成
- (6) ポートフォリオの研究・開発
- (7) 18年型探究学習モデルの研究・開発

5 教育課程の特例の活用の有無

無し

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程										
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
研究所の支援	指導主事派遣	指導主事派遣	指導主事派遣			指導主事派遣	指導主事派遣	指導主事派遣	指導主事派遣	指導主事派遣	運営指導委員会
合同発表会支援				合同中間発表会						合同発表会	成果発表会

- ※3月の運営指導委員会および成果発表会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、中止
- ・継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮として加配を行う。
 - ・県教育総合研究所の新教育課題研究課に担当職員を配置し、研究開発の支援を行う。
 - ・県内の6つの高校（丸岡、鯖江、勝山、羽水、敦賀、若狭）の探究学習の成果を発表する合同発表会を県総合研究所で実施し、成果の共有をはかる。

(2) 実績の説明

①コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名（敬称略）
福井県教育委員会	教育長 豊北欽一
坂井市	市長 坂本憲男
坂井市議会	議長 田中哲治
坂井市教育委員会	教育長 川元利夫
あわら坂井ふるさと創造推進協議会（アズAS）	会長 佐々木康男
坂井市まちづくり協議会	会長 坂本憲男
（一社）丸岡城天守を国宝にする市民の会	会長 松本富男
OECD日本イノベーション教育ネットワーク（ISN）	代表 東京大学教授 鈴木寛
福井大学連合教職大学院内 ISN 探究チーム福井	研究総括 木村優
福井県立丸岡高等学校	校長 河野和博
福井県立丸岡高等学校PTA	会長 澤崎栄輝
坂井市立丸岡中学校	校長 畑山達哉
坂井市立丸岡南中学校	校長 柳原潤一郎
坂井市立平章小学校	校長 甲斐和浩
坂井市立長畝小学校	校長 山本一郎
（台湾）高雄市立福誠高級中学	校長 蘇清山

②コンソーシアムとの活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年5月17日	コンソーシアムを組織
令和元年5月13日（第1回）	タイスタディーツアーに丸岡ロータリークラブが協力することが決定

令和元年6月19日(第2回)	坂井市のふるさと納税を活用した「百口城主プロジェクト」に地域協働部の生徒が参加することに決定
令和元年7月6日(第3回)	丸岡古城祭りに生徒が企画した展示を行うことと総踊りに生徒が参加することが決定
令和元年8月1日(第4回)	百口城主プロジェクトの年間企画について決定
令和元年9月17日(第5回)	「すてきな坂井市」をテーマに坂井市議会と協働した地域課題の解決のための討論会を開催することが決定。
令和元年10月17日(第6回)	あわら坂井ふるさと創造推進協議会(アズAS)幹事会。今年度の活動方針が決定
令和元年11月1日(第7回)	丸岡ロータリー2名がグローバルスタディ英語を視察
令和元年11月13日(第8回)	新バスターミナルにピクトグラムをデザイン決定
令和元年11月15日(第9回)	丸岡ロータリー2名がグローバルスタディ英語を視察
令和元年12月17日(第10回)	丸岡ロータリー8名の方がグローバルスタディ英語に参加、SDGsの探究報告を聞いて頂きコメントをしていただいた。企業の観点、地域社会の観点から生徒は有益なアドバイスをいただいた。
令和2年2月4日(第11回)	坂井市議会で坂井市の活性化策について提案・発表
令和2年2月13日(第12回)	丸岡城を国宝にする市民の会を招き地域活性化策に関する意見交換会
令和2年2月28日(第13回)	丸岡ロータリーと協働で進めてきたSDGs研究発表会

(3) カリキュラム開発専門家について

*カリキュラム開発専門家

福井連合教職大学院准教授 木村優

福井大学連合教職員大学客員教授 松田通彦

北陸大学 藤岡慎二

①カリキュラム開発専門家の活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年5月20日(月)	教員研修会 ・「探究学習と総合的な探究の時間に向けた展望」というテーマでカンファレンス ・他校の実践例を挙げ、本校の活動計画について協議
令和元年9月20日(金)	・全生徒を対象にした講演会「今、なぜ探究活動が必要なのか」 ・教職員を対象にした講演会「地域との協働による探究活動」
令和元年11月7日(木)	・1年生が実施した課題研究中間報告会の指導、助言および講評を行った。
令和2年2月13日(木)	・1年生が実施した課題研究発表の指導、助言および講評を行った。

(4) 海外交流アドバイザーについて

*海外交流アドバイザー

福井大学連合教職大学院 特命助教 王林鋒

元福井大学連合教職大学院コーディネーター チャー ポリン・マングラープナン

①海外交流アドバイザーの活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年7月28日(日)	県内在住の外国人と高校生によるウィキペディア編集(多言語翻訳)の指導・助言
令和2年2月13日(木)	・1年生が実施した課題研究発表の指導、助言および講評を行った。

(5) 地域協働学習実施支援員について

*地域協働学習実施支援員

丸岡ロータリークラブ(学校教育担当) 竹吉 睦

元福井県広報課職員 岩田早紀代

演劇教室 MAFF 水本仁美 氏

丸岡高校 OB 野村幹三郎 氏

月刊ウララ編集長 宮田耕輔 氏

①地域協働学習実施支援員の活動日程・活動内容

日程	内容
令和元年5月25日	福井市でのウィキペディアタウンに同行
令和元年5月26日	高校生が地域の史跡を見学するツアーの企画・運営
令和元年5月15日	地域の方々に対する市民講座を企画・運営指導
令和元年7月4日	インスタグラムの撮影指導
令和元年7月11日	AR(仮想現実)を使った町歩き講座の企画運営指導
令和元年7月13日	地域の方々に対する市民講座を企画・運営指導
令和元年7月17日	百口城主プロジェクトの指導
令和元年7月28日	ウィキペディアタウン翻訳会の企画・運営指導
令和元年8月2日,8日、	丸岡の魅力発信活動の指導
令和元年9月11日	ビジネスプランコンテストの指導
令和元年9月29日	のうねの郷シルバーフェスタの企画・運営指導
令和元年10月1,3,4,7日	丸岡古城祭りの企画・運営指導
令和元年10月18,23,25日	丸岡の魅力発信活動の指導運営
令和元年11月1,8,9,15日	丸岡高校生忍者隊の演劇の脚本・演劇指導
令和元年11月14,15日	ふるさと納税を活用したツアーの企画・運営指導
令和元年11月16日	丸岡新そばまつり企画・運営指導
令和元年11月19日	福井データチャレンジでのアプリ開発の会議準備
令和元年11月20日	高校生の開発商品「石垣ボーロ」の打合せの調整
令和元年12月11日~13日	丸岡高校生忍者隊の演劇の脚本・演劇指導
令和元年12月20~23日	お城 EXPO2019での展示ブースでの指導

(6) 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

本校の教員を大学院生とし、月1回程度、本事業に対する組織マネジメントなどについて本校や大学院でカンファレンスを実施。また、県教育総合研究所の新教育課程課と本校が協働で探究型学習の改善について協議を行った。(3月の委員会は新型コロナのため中止)

元ヨルダン特命全権大使・元シドニー総領事 加藤重信
(豪)ヤラキ CAPITAL マネジメント社外取締役 出川昌人
福井大学連合教職大学院 教授 三田村彰
福井大学連合教職大学院 准教授 木村優
福井大学連合教職大学院 客員教授 松田通彦
福井県交流文化部 観光誘客課 課長 獅子原朋広
坂井市総合政策部 企画情報課 課長 三上寛司
福井県教育総合研究所 新教育課題研究課 課長 朝倉智子
福井県教育総合研究所 新教育課題研究課 主任 吉田英史
一般社団法人アーバンデザインセンター坂井 サブディレクター 田谷良人

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年4月25日(第1回)	「なぜ探究が必要か」について、高校生に対して運営指導員(教育総合研究所 吉田主任)が講義。
令和元年5月18日(第2回)	大学院カンファレンス ・今年度の展望について協議し、1年間の方針を決定
令和元年6月12日(第3回)	運営指導委員が丸岡高校を視察し、教員対象にSWOT分析を実施。丸岡高校の強み、弱みを共有化
令和元年7月13日(第4回)	大学院カンファレンス ・1学期の活動について報告し、改善点を協議
令和元年9月12日(第5回)	本校の1年生が実施した地方の方へのインタビュー成果報告会を視察し、改善点を協議。
令和元年9月24日(第6回)	本校で実施した高校の魅力化についての講演会に参加。
令和元年10月25日(第7回)	中高連携について協議し、丸岡南中学校との連携した研究を決定
令和元年11月7日(第8回)	学校設定科目のグローバルスタディー英語の授業を視察。授業後、担当教員や研究責任者と意見交換。
令和元年12月25日(第9回)	大学院カンファレンス ・2学期の活動について報告し、改善点を協議
令和2年3月13日(第10回)	【中止】新型コロナウイルスの感染拡大防止のため

(7) 管理機関における取組について

①管理機関(コンソーシアム含む)における主体的な取組について

- ・継続的な取組を行うための教員の人事面における配慮として、加配を行う
- ・県教育総合研究所の新教育課題研究課が研究開発の支援を行う

②事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・県教育総合研究所の新教育課題研究課が継続して研究開発を支援する

③高等学校と地域の協働による取組みに関する協定文書等の締結状況について

- ・令和元年度に（台湾）高雄市立福誠高級中学とフレンドシップ協定
- ・令和2年度に坂井市との連携協定を締結予定

7 研究開発の実績

(1) 実施日程（※新型コロナウイルスの感染拡大のため中止）

実施項目	実施日程（※令和2年1月6日時点）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「総合的な探究の時間」における探究学習		2回	2回	2回		3回	2回	4回	2回	3回	3回	※
学校設定科目「グローバルスタディー英語」における探究学習		4回	4回	1回		3回	4回	5回	1回	3回	3回	※
部活（地域協働部やESS部）によるグローバル活動		15回	12回	9回	9回	9回	15回	12回	6回	8回	8回	※
海外研修プログラム		1回	1回	1回	タイ研修	3回	4回	5回	台湾研修			※
丸高カレッジ（市民講座）			1回	1回					1回			※
18年型探究学習モデル開発		1回	1回						1回			※
JKB（教員の資質向上）		1回	1回	1回		1回	1回	1回	1回	1回	1回	※

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

【地域課題研究の内容】

総合的な探究の時間（Mプロジェクト）で以下のようなプログラムを実施した。

1年生では、本校が育みたいと考える「ア 地域や世界と関わりながら、自分で考え、主体的に責任をもって行動できる力」、「イ 多文化共生社会をめざし、外国人と協働して課題を発見し解決できる力」、「ウ 世界的な視野で地域の資産を生かして、新しい産業を生み出す企業力」これら3つの資質・能力の中のアに関して、生徒の実態を鑑みた上で、特に「地方へアクセスする力」「情報収集・活用する力」「主体性・責任感（Agency）」の3つを目標に掲げと取り組んだ。2年生では、「夢プロジェクト」と銘打ち、生徒一人ひとりが将来の夢について考え、その進路実現に向けて主体的に取り組む姿勢を身につけることを目的とした。3年生では、その中で生徒自身が描いている夢について、地域の方々や企業に直接足を運び、お話を伺うことで地域と関わりながら自分の夢について理解を深め、今の自分に足りないものは何か気づくことを最終目標とした。

実施計画概要（1年生の例）

月 日	学習テーマ	概 要
4月25日	課題解決型学習とは①	早い段階から課題解決型学習の取組を意識させるために、県の教育総合研究所と連携し、課題解決学習の基礎学習を実施。
6月4日	課題解決型学習とは② 【フィールドワーク】	「未来に残したい丸岡の宝」のテーマのもと、フィールドワークを実施。地域の現状や課題を把握するとともに興味・関心を高め、地域を愛する心を醸成したいと考えた。
6月13日	課題解決型学習とは③ 【クラス横断の発表会】	クラス横断のグループになって、フィールドワークの成果を発表。地域のもつ魅力の再発見、および課題の把握を通して「自分が地域社会でどのような役割を担えるか」を考えるきっかけにしたいと考えた。
夏季休業中	地域活性化に取り組んでいる方へインタビュー①	夏季休業中の課題として、生徒各自が地域活性化に取り組んでいる方を調べ、アポイントメントをとって、インタビューを実施。生徒と地域の方々との「つながり」を築き、地域への帰属意識を高めることで、地域課題に対して主体的に責任をもって関わってほしいと考えた。
9月12日	地域活性化に取り組んでいる方へインタビュー② 【各クラスで発表会】	インタビューの成果を発表。地域活性化の具体的な取り組み、思い、課題等を理解することで、帰属意識を高め、地域課題に対して主体的に責任をもって関わってほしいと考えた。
9月19日	地域活性化の事例研究①	新聞記事やインターネットを用いて、福井県内および全国における地域活性化の取り組みを調査・情報収集を実施。
9月26日	地域活性化の事例研究②	調査・情報収集の結果をもとに、地域のために「高校生の自分たちには何が出来るか」を考え、ポスターにまとめた。本学習を通して「調べる力・考える力・まとめる力」の基礎を養いたいと考えた。
10月10日	地域活性化の事例研究③	
11月7日	地域活性化の事例研究④ 【ポスターセッション】	本研究のコンソーシアムの方々を招聘し、体育館にてポスターセッションを実施。様々な発表の仕方を経験させるとともに、「伝える力」「訊く力」を育みたいと考えた。ポスターセッションを通して、生徒は様々な地域活性化の取り組みを知ると同時に、難しさや自らの考えの未熟さを実感する機会になった。事後、福井大学連合教職大学院の木村優准教授より「課題を深掘りする」よう助言を頂いた。
11月21日	・地域活性化の事例研究⑤ 【ポスターセッションの表彰】 ・「問題」と「課題」の違い	・ポスターセッションで優秀プレゼンターに選ばれた生徒を表彰。 ・今後の学習に向けて「問題」と「課題」の違いについてのレクチャーをし、学年全体で共通理解を図った。
11月28日	地域問題提起①	市役所から提供して頂いたデータを参考に、丸岡における理想の姿と実際の姿を考え、そのGAP（＝問題）についてクラス内で意見を出し合った。
12月11日	地域問題提起②	“丸岡における本当の問題は何か”を求めて、フィールドワークの計画を練った。
12月16日	地域問題提起③ 【フィールドワーク】	地域の方が考える「問題」を見い出すべく、街頭調査を実施。計322名からデータを収集することができた。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

- ・1～3年の総合的な学習（探究）の時間を実施
- ・学校設定科目「グローバルスタディー英語」での実施（令和2年度からは、「グローバルスタディー社会」でも実施）。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組みについて

- ・家庭科と芸術科（美術・書道・音楽）が、地域の保育園と連携した教科横断型学習「保育園交流学習プログラム」を実施。

- ・国語科と芸術科（美術・書道・音楽）が、県内在住の外国人を招いて、俳句、書道、絵画、音楽の教科横断型学習「異文化交流プロジェクト」を実施。

④類型毎（グローバル型）の趣旨に応じた取組みについて

- ・「タイスタディーツアー」
 - 地域の丸岡ロータリークラブと協働し、SDG s の「貧窮をなくそう」をテーマにタイのスラム街の調査やタイの施設の子ども達と交流を実施。
- ・「台湾研修」
 - SDG s の「ジェンダー平等を実現しよう」をテーマに女性の人権について台湾の高雄市福誠高級中学と国際協働探究学習を実施。
 - この2つの研修は、タイと台湾生徒との交流を通じて、文化、生活、地域との関わり、地域への課題への取組みを現地に行き体験し学び、それを全校生徒に還元し、全校生徒が自分たちの取組みと比較するために行っている。海外に研修に行った生徒の影響は大きく、地域の課題を探究するときのリーダー的役割を果たしてくれ、その存在と経験は、教育課程全体の中に生きている。
- ・グローバル講演会
 - 多文化共生講演会、ユニセフキャラバン講演会、SDG s 金融教育講演会などを実施。
- ・「ウィキペディアタウン」「外国人向けマップ制作」
 - 地域情報を県内在住の外国人と協働して調査・研究し、ウィキペディアに10カ国語で翻訳し掲載。また、著作権フリーのオープンストリートマップを活用し外国人向けに地域を紹介したデジタルマップを制作。
- ・異文化交流事業
 - 丸岡音頭やアニメなどを高校生が日本語学校の外国人留学生に紹介。
- ・海外からの教育視察団受け入れ
 - 台湾から福井県への教育旅行を誘致するため、教育使節団6名（団長 国立中山大学附属国光高校 陳修平校長）を受け入れて、授業参観や教員・生徒との交流。
- ・国際フェスティバルへの参加
 - 県国際交流会館の国際フェスティバルで地元中学校と協働した SDG s に関する展示説明会を実施。また、横浜のお城 EXPO2019 では、丸岡藩の歴史演劇を創作し高校生忍者隊が演じる。
- ・地方創生事業
 - 坂井市議会と丸岡高校 PTA が協働し、高校生と議員が坂井市の活性化について討論する「すてきな坂井市」を実施。

⑤成果の普及方法・実績について

- ・本校でのグローバル事業などを紹介した「丸高通信」を毎月発行し、地域の中学校、市役所、図書館、公民館、銀行などで掲示・配布（9号まで発行）
- ・学校ホームページ、フェイスブック、インスタグラム等での配信
- ・テレビ・ラジオへの出演（福井テレビ、福井放送、FBC ラジオ、NHK、坂井ケーブルテレビなど）
- ・新聞への掲載（福井新聞、日刊県民福井）・坂井市の広報誌への掲載

(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進

本研究開発で取り組む様々な活動についての関係性については、具体的には「実践報告書」および来年度への研究開発実施計画書に述べた。教育課程全体から見ると、この研究開発を「学びの核」に据えて教科を俯瞰していくということである。各教科の特性を尊重しつつ、「地域との協働」の探究の中で出てきた課題を解決するために教科横断的に教科の中で取り上げていただくことを願う。また、それぞれの教科が、その探究の学びから派生してくるものを取り上げてもらう。ひいては探究をしていく中で、広く学問をしていく意義を体得してもらうことが究極のねらいである。

<具体的研究推進体制>

- ・福井大学連合教職大学院に現役教員を院生として派遣し、大学院と協働してカリキュラム開発を推進していく。

②学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

教員を8つのチームに編成し、各責任者のもと研究開発を行う。教員だけではなく、事務室の職員も研究を支援する。

【研究開発チーム】

- ・事務局チーム：事業全体を総括、各事業の進捗状況の管理、企画立案、県外視察者の対応
- ・海外協働ユニットチーム：海外研修、異文化交流などの企画運営
- ・地域協働ユニットチーム：丸岡城サミット、丸高カレッジ、議会塾などを企画運営
- ・Mプロジェクトチーム：1～3年の総合的な学習（探究）の時間の企画運営
- ・学校設定科目チーム：英語科、地歴公民科を中心に学校設定科目の研究
- ・研究チーム：教科横断型授業やカリキュラムの研究
- ・発信チーム：研究紀要の編集、広報誌の発行
- ・検証・評価チーム：運営指導委員会の企画運営
- ・会計事務チーム：事務室の職員を中心に予算や決算などの会計事務を行う

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

- ・校内に教員の自主研究会（JKB：授業力向上研究会）を組織し、本校の取組みを検証・評価、改善していく。
- ・本校教員1名を福井大学連合教職大学院の院生とし、連合教職大学院と協働して本校の取組みを検証・評価、改善していく。
- ・県教育総合研究所の新教育課題研究課が、担当職員を継続的に派遣し、本校の取組みを検証・評価、改善していく。
- ・OECD日本イノベーション教育ネットワーク（ISN）のISN2.0実践校として本校の取組みを検証・評価、改善していく。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組みについて

- ・丸岡ロータリークラブと英語科が協働して、学校設定科目「グローバルスタディー英語」のカリキュラム開発を行う。

8 目標の進捗状況、成果、評価

- ・生徒たちが地域や社会で行っている出来事に大変関心がある

目標 20% 実績 62.2% 評価 目標達成

- ・短期または長期留学生の受入れ人数

- 目標 10名 実績 8名
 内訳 学生2名（台湾高雄市福誠高級中学より）
 教育施設団6名（台湾国立中山大学附属国光高校他）
 評価 目標を達成できず（理由 中国の海亮教育集団が急きょキャンセル）
- ・外部人材が本校に活動に参画してくる人数
 目標 25名 実績 58名
 内訳 丸岡ロータリークラブ13名 ウィキペディアタウン協力外国人10名
 坂井市役所職員5名 企業（IT企業、銀行等）3名 三国演劇教室2名
 丸岡城を国宝にする市民の会2名 坂井市議会23名
 評価 目標達成
 - ・成果の発表回数
 目標 4回 実績 7回
 内訳 台湾での研究発表、タイスタディーツアー報告会、1年生ポスターセッション、
 全国高校生フォーラムポスター発表、県国際交流会館でのSDGs発表
 評価 目標達成
 - ・新しいカリキュラム開発のための検討会の回数
 目標 3回 実績 4回
 内訳 学力向上研究会（JKB）主催の教員研修会 評価 目標達成
 - ・地域と協働した活動回数
 目標 5回 実績 7回
 内訳 三国湊帯の町流し のうねの里祭り 丸岡そば祭り お城 EXPO 2019
 丸岡南中秋祭り 城小屋マルコ 百口城主プロジェクト
 評価 目標達成
 - ・海外との協働探究学習でグローバルな視点を持ったかのアンケート調査
 目標 50% 実績 64.4% 評価 目標達成

9 次年度以降の課題及び改善点

課題や改善点

【生徒】

- ・生徒自らが課題を見つけることができる力の育成
- ・教員主体から生徒主体への活動の転換
- ・部活動中心から全校生徒の活動への転換

【教員】

- ・働き方改革との兼ね合い
- ・教員のスキルアップ（評価、教科横断型授業など）

【海外】

- ・海外姉妹校との交流ノウハウの蓄積

【コンソーシアム】

- ・地域コーディネーターとの積極的協働
- ・連携協定の締結

【担当者】

担当課	福井県教育庁高校教育課	TEL	0776-20-0549
氏名	野村 俊夫	FAX	0776-20-0669
職名	高校教育課 主任	e-mail	t-nomura-cz@pref.fukui.lg.jp